



医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

1 巻頭言

2 副センター長の紹介

3 取組紹介

●特集 I

スキルス・ラボにおける多彩な取組

●大学院GP報告

4 平成22年度の主な活動予定



～ 医療人教育の新たなステージへ ～

医療教育開発センター長 赤池 雅史

医療教育開発センターとスキルス・ラボが現在の場所で新たにスタートして2年目を迎えました。去る6月には平成16年の発足以来、当センターの発展に多大な貢献をされた寺嶋吉保先生が徳島県立中央病院に異動され、後任として岩田貴先生が着任されました。

本学のスキルス・ラボは、医療人育成としての蔵本キャンパス全体の横断的結合と卒前から生涯教育にわたる縦断的統合が特徴です。現在、多くのシミュレーターを活用して、医・歯・薬学部の学部教育、研修医や新人看護師対象の臨床技能講習をはじめ、「がんプロ」や「四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成推進事業」と連携した高度臨床技能の講習会も活発に行われています。スキルス・ラボでは精巧なシミュレーターを用いた技術訓練にのみ目が向きがちですが、診療現場では単に技術を有するだけではなく、診療状況に応じて的確に判断し、医療チームメンバーとの連携や患者とのコミュニケーションをとりながら、問題解決を行う能力が求められます。当センターでは、このような知識・技能・態度を統合した高度な臨床能力（コンピテンシー）を習得できるシミュレーション教育プログラムやその評価法を開発していく予定です。さらに徳島大学病院安全管理対策室と連携して、リスクマネジメント上の問題点を教育へフィードバックし、安心・安全かつ高度なチーム医療に繋がる職種間連携教育を推進したいと思います。

大学院教育については、世界最高水準の若手研究者育成を目指した「医療系クラスターによる組織的大学院教育」（文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラム）が2年目を迎えました。今年度は、心・血管、肥満・糖尿病、感染・免疫、骨とCa、ストレスと栄養、脳科学の6つの教育クラスターから24名の大学院生が選抜され、組織横断的な指導体制のもとで研究を開始しています。最先端の研究内容を紹介するクラスターコアセミナーも開始され、その予定は当センターから電子メールやホームページで蔵本キャンパスの大学院生全員に案内されています。さらに研究交流を目的としたクラスターリトリートは、昨年度に続き今年度も学長裁量経費の助成が決定し、開催を予定しています。このような知の創造に携わる喜び・誇りを実感できる大学院教育を目指して、その支援を続けていきたいと考えております。

医療教育開発センターでは、臨床と研究のアウトカムに貢献できる教育支援を目指しております。医療人教育の新たなステージに向け、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2 副センター長の紹介 ●●●

岩田 貴（医療教育開発センター専任准教授）

本年6月1日に副センター長（専任准教授）を拝命いたしました。全国的に医療教育に対する期待と必要性、需要は年々高まっており、各大学で様々な工夫がなされており、まさに「医療教育の再編」が猛烈なスピードで行われているのが現状です。したがって当医療教育開発センターが行わなければならない業務は非常に多岐にわたり、より充実した医療教育が実践できるよう限られた人員でまさに自転車操業の状態です。業務にあたっております。あらためて前任の寺嶋吉保先生が築かれた6年間の業績のすばらしさと、これを継承し、さらにqualityを高めなければならない責任の重大さを痛切に感じております。

これからは蔵本キャンパスのためによりよい医療教育の提供ができ、さらに新たな挑戦ができるよう努力する所存であります。みなさまのご指導ご鞭撻、宜しくお願いします。



羽地達次（口腔科学教育部 教授）— 研究会に出てみよう —

学会に出席することの意義のひとつに普段接したことのない先生と話をすることがあげられます。懇親会に出席して勇気を出していわゆる偉い先生に声をかけて話をしてみることです。といっても学会の懇親会では接する先生に限られ、有名な先生の周りには人垣ができてなかなか話をすることはできません。大学院の学生にさらに勧めたいのは宿泊を伴う研究会に出席することです。宿泊が伴えば必ず夜を徹しての懇親会があります。本当に偉い先生から大学院生まで皆でワイワイガヤガヤ学問について討論します。身分に関係なく小人数のグループが出来るので、話の内容も深くなりかつお互いに親しみを感ずります。HBS研究部の学生には夏の小豆島リトリートでもその一端を経験することができます。リトリートで予行演習をして次の機会を作って全国あるいは全世界の有名な先生と話をする機会を是非作って下さい。



徳村 彰（薬科学教育部 教授）

昨年度に引き続き、薬学部・薬科学教育部を代表してHBS研究部医療教育開発センター副センター長を担当することになりました。薬学部では、6年制の導入の第1期生が本年度5年次に進級し、長期の病院実習と薬局実習を通じて将来の医療チームの構成員としての自覚を深めております。また、平成24年度には、この6年制課程の終了生のための大学院の設置を予定しており、専門性を高めた指導的薬剤師の養成のための新組織やカリキュラムを検討しております。薬学部や薬科学教育部における教育を更に充実させるには、蔵本地区の各学部や教育部との連携が肝要であり、医療教育開発センターを核とする活動に努めていきたいと考えております。



高橋 章（栄養生命科学教育部 教授）

平成22年度より、栄養生命科学教育部を代表して副センター長を担当いたします。よろしくお願いいたします。ご存じのとおり我が国の大学院教育には多くの問題が山積しておりますが、栄養生命科学教育部においては、博士後期課程進学希望者の減少と社会人入学希望者の増加がみられ、その対応に迫られている現状です。この中で、博士後期課程定員の減少や教育プログラムの多様化など、大学院教育の質をいかにして向上させるかが問われています。医療教育開発センターを中心にして蔵本キャンパスの各教育部の連携を深めていくことが、栄養生命科学教育部にとっても重要でありセンター活動の充実化に努めてまいります。



多田 敏子（保健科学教育部 教授）

保健科学教育部では、博士後期課程は、生涯健康支援学領域、医用情報科学領域および医用検査学領域で構成されており、1学年5名の定員です。平成22年度で完成年度を迎えます。完成年度以降の構想をどのように立てるかが、新たな課題になります。

博士前期課程も、看護学領域、医用情報科学領域および医用検査学の3つの領域で構成されています。平成23年度入学生から1学年の定員が19名になります。

医療に従事する高度専門職業人の養成と、大学院課程での教育内容が連動することが社会的にも要請され、大学院教育の在り方を見直す時期が来ています。また、社会人入試による入学者が多いことや、外国人留学生受け入れの準備など、保健科学教育部の充実に向けて医療教育開発センターのお力添えをお願いしたいと思っております。よろしくお願い致します。



3 取組紹介 ●●●

特集 ■ スキルス・ラボにおける多彩な取組 (Clinical Skills Lab. : CSL=通称スキルス・ラボ)

●研修医教育講座

研修医に対しシミュレーターを用いた実技指導が行われました。病院安全対策室と連携して、今後は実技試験も実施予定です。



7月28日腰椎穿刺講習会



6月23日CV講習会

●高校生医学体験研修

8月4日は徳島文理高校生32名、8月6日は徳島県下の医学部進学を志望する高校生89名が、心臓マッサージや縫合、聴診、採血などの体験を行いました。

今年は脇町や小松島など徳島市外からの参加もあり、参加数も昨年の倍以上となりました。



縫合実習



採血練習



聴診実習



救急蘇生

●平成22年度がん診療技能FD講習会

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
日時：平成22年7月2日 参加人数15名



●徳大きりんセミナー（徳島基本的臨床技能セミナー）

医師国試「臨床問題」をsimulatorで体感しながら解く、現場で使える基本的臨床技能を身につける実践セミナーです。呼吸器問題は毎月第4月曜に、徳島市民病院内科田畑良先生を、循環器問題は奇数月第4水曜に県立中央病院循環器科藤永裕之先生をそれぞれ講師に迎え、少人数で18時から90分程度開催しています。



●医学・歯学・薬学におけるシミュレーション教育

医学科6年次オープンスキルス・ラボ（6月24日～7月1日）advanced OSCE（7月3日）、口腔保健学科3年次看護技術実習（7月13日）、薬学部1年次体験実習（7月9,16,23日）等がスキルス・ラボで行われました。



医学科オープンスキルス・ラボ



歯学部口腔保健学科



薬学1年次体験実習

●徳島県立中央病院 新人医療職対象採血研修

日時：平成22年4月20、21日 参加人数：38名

関連医療機関によるスキルス・ラボ利用の一環として、徳島県立中央病院の新人医師・看護師・臨床検査技師の38名を対象に採血実習を行いました。



■大学院GP報告 組織的な大学院教育改革推進プログラム 「医療系クラスターによる組織的大学院教育」

今年度より皆様のご協力により、クラスターコアセミナーが実施されています。

「クラスターコアセミナー」は教育クラスターを構成する先生方にそれぞれのご研究の最先端を講義していただくもので、講義形式での実施や、セミナーや講演会を兼ねた実施が行われています。

コアセミナーの詳細は大学院GPのHP

<http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp/jp/medc/hbsgp.html> にて確認できます。

又、コアセミナー開催2週間前と前日には、蔵本キャンパスの教員及び大学院生の皆様に連絡メールを配信しています。

コアセミナーは、大学院教育を通じて研究者間交流を深めることも大きな目的です。各クラスターに所属する大学院生のみならず、蔵本キャンパスの多くの方にご聴講していただけることを願っています。



2010/8/11 日垂メディカルホールにて「2010年アジア糖尿病フォーラム徳島」が開催されました。

肥満・糖尿病クラスターでは、この国際的フォーラムにおけるクラスター教員の講演をクラスターコアセミナーと兼ね、大学院生が最先端の研究に触れる機会としています。



脳科学クラスターコアセミナー「脳卒中研究の最前線」
2010/6/10 於：医学部A棟 第1カンファレンス室



後期には昨年同様、クラスターミニリトリートを開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

第2回Simulation医療教育Workshop in 徳島

徳島大学スキルス・ラボを会場に、全国対象の講習会を開催します。シミュレーターを用いた教育には、特有のノウハウが必要です。スキルス・ラボを活用した医療人教育の先進校である慶応義塾大学から、スキルス・ラボコーディネーターとして経験と実績を持つ安井清孝先生をお招きし、効果的なシミュレーション教育の具体的手法・指導法を学びます。 **日程：平成22年11月6日（土）**

4 平成22年度の主な活動予定 ●●●

■第6回 Tokushima Bioscience Retreat 2010

と き：平成22年9月16日（木）～19日（土）

ところ：香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島

本年も大学院リトリートの開催を行うことが決定しました。現在、今年の世話人役である六反一仁先生（医科学教育部）を中心に準備を進めているところです。例年に増して素晴らしい交流が行われることを期待しています。



■その他

9月30日 「チーム医療入門ワークショップ」

11月6日 第2回Simulation医療教育Workshop in 徳島(FD)

11～2月 大学院GP クラスター・ミニリトリート

3月 大学院GP クラスター活動報告会

クラスター大学院生発表会

その他 毎月 CV個別講習会

徳大きりんセミナー

(徳島基本的臨床技能セミナー)

医療教育開発センターニューズレター Vol.6 2010. 8. 20

編集・発行 徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

TEL：088-633-9104 / FAX：088-633-9105

ホームページ：<http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp/jp/medc.html>